総合的な学習の時間「紫野タイム」学習指導案

指導者　京都市立紫野小学校　公庄さゆり

1. **日　　時**　令和３年９月９日（木）　第６校時（14：30～15：15）

2. **学年・組**　第６学年２組（３２名）

3. **場　　所**　６年２組教室

4. **単 元 名**　「紫野からよりよい未来へ！～no one will be left behind～」

　　４月～３月　総時間７０時間

5. **単元の目標**

『SDGs』の１７の目標について内容や現状等を調べる，身の回りから課題を見つけ自分たちにできることを実践する，より多くの人に取組を提案する等の活動を通して，他者と協力しながら目標を達成することの意義を理解し，自分たちにできる持続可能な取組について考えるとともに，よりよい未来を創るための取組を改めて考え，生かしていくことができる。

6. **単元の探究課題と育成を目指す資質・能力及び評価規準**

<table>
<tr><td colspan="4">【探究課題】持続可能なよりよい未来と自分たちの取組（未来）</td></tr>
<tr><td colspan="2">探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力</td><td>知識及び技能</td><td>思考力，判断力，表現力等</td><td>学びに向かう力，人間性等</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>『SDGs』の内容や１７の目標について，達成することの意義を理解するとともに，自分の言動が，よりよい未来を創ることにつながっていくことを自覚し，実践することができる。</td><td>インターネットで調べたり，身の回りの様子に目を向けて調査したりする中で，『SDGs』に関わるさまざまな情報を集め，比較したり共通点を見つけて整理したりしながら自分の考えを深めている。</td><td>よりよい未来を創る担い手として，日頃の言動を見つめ直し，できることを友達と協力して実践し，学んだことを生かして大切にしていこうとする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単元の評価規準</td><td>観点
過程</td><td>知識・技能</td><td>思考・判断・表現</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td>発見過程／追究過程</td><td>・世界共通の目標である『SDGs』を達成することの意義を理解している。
・『SDGs』は，発展途上国や大人だけの課題ではなく，自分たちが行動することでよりよい未来につながることに気付いている。</td><td>・地域にはたくさんの素敵がある中で，未来への課題もあることに気付き，調べたいことを見つけている。（課題の設定）
・疑問や調べたいことについて課題解決に必要な情報を取捨選択しながら，収集している。（情報の収集）
・集めた情報を整理・分析し，課題をまとめ，自分の考えを深めている。（整理・分析，まとめ・表現）</td><td>・『SDGs』についての認識を深め，自分事として捉えようと，様々な視点をもって調べようとしている。
・『SDGs』の内容を理解したり，友達の思いや考えに共感したりしながら，意図的・積極的に課題とかかわっている。</td></tr>
</table>

	提案過程／熟成過程／表現過程	・集めた情報の関連性を見出したり，共通点を見つけたりして，キーワードで整理したり，それらを図や文章でまとめたりする方法が分かっている。 ・目標を達成するためには，多くの人と協力し合うことが大切であることを理解し，協力を得るために，情報を整理・分析しながら活用できるデータや資料をつくることができる。 ・『SDGs』について考え，調べたり実践したりしてきたことによって，自らがよりよい未来を創る一員であることを自覚している。	・身近な課題を解決するための最適な方法やそのための策を考えている。（課題の設定） ・選択理由を明確にしたり，課題との整合性を確かめたりしながら解決策の内容を考えている。（課題の設定） ・自分たちが考えた課題解決に向けたプロジェクトをよりよい取組にするために,様々な方法で必要な情報を集めている。（情報の収集） ・プロジェクト活動を進める中で集めた情報や考えを整理・分析し，活動をよりよくする方法や伝わりやすい内容・方法を考えている。（整理・分析） ・自分たちが考えたプロジェクトについて,練り上げた考えをもとに,分かりやすく伝える方法を考え，表現している。（まとめ・表現）	・身近な課題を解決するための方法を友達と話し合いながら模索し，協働して粘り強く実践しようとしている。 ・よりよい未来に対する自分の考えや言動の変容に気付き，今後も継続して大切にしていこうとしたり，自分にできることを実践したりしようとしている。

7. 探究課題について

本学年の児童は，互いの意見を尊重し合って共感的に聞いたり，日常の掃除や行事の準備等，様々な活動に意欲的に取り組んだりすることができ，友達と協働して学んだり活動したりすることのよさや大切さに気付きつつある。最高学年となり，学校のスーパーリーダーとしての自覚も見られるようになり，学校のために行動する場面でも安心して任せられるようになってきた。一方で，困難な場面に直面すると,「誰かが何とかしてくれるだろう。」「できないのは誰かのせいだ。」「もうやめよう。」等，悲観的に捉えたり他人事にしてしまったりする様子が見られる。新型コロナウイルスの蔓延により様々な活動が制限され，児童にとっては，粘り強く何かに取り組み，その達成感を感じられたり，最高学年としての役割を果たす中で自尊感情を高めたりできるような機会が，格段に減っているのが現状である。そこで，今年度は,『SDGs』に着目し，単元を『紫野からよりよい未来へ！～no one will be left behind～』とした。身近なところから世界にも視野を広げ，あらゆる課題に対して粘り強く取り組むことの大切さに気付き，また，協働しながら一人一人が力を発揮することで達成感を得られると同時に，自らがよりよい未来を創る一員であることを自覚できるようにしたいと考え，この探究課題を設定した。

学習を進めるにあたって，児童とって聞き慣れないであろう『SDGs』について，まずは正しく理解することから始める。その際に，国連やユニセフが作成しているインターネットサイトや，パンフレット等を活用することになるが，情報が多く，また，聞き慣れない言葉も多数あることを踏まえ，調べ学習の時間を十分に確保し，思考ツールも活用しながら情報整理できるようにしたい。さらに，日常にも目を向けながら課題を把握することで，児童は身近な課題として捉え，「自分たちにも何かできることはないか。」「多くの人に協力してもらうことが目標達成には欠かせない。」と考えるだろう。その上で，自分たちにできることを練り上げ，実際にプロジェクトとして実行する。実行する際には，学校や家庭，地域にも発信し，多くの人の協力を得ながら進めることで，大きな達成感を得られるようにしたいと考える。そのためにも，PDCA サイクルを意識しながら単元を構成することにより，児童自身が PDCA サイクルの重要性に気付き，学習のみならず様々な場面で生かしてほしいと考える。

また，現代社会においては，ICT 活用能力を身に付けることも重要である。今年度から本格実施となった GIGA スクール構想に伴い，１人１台の GIGA 端末が配備され，本学年においては，学習に欠かせないものとなりつつある。本単元の学習においても，情報収集や整理･分析場面で,「ロイロノート」の思考ツールを中心に積極的に活用していく。思考ツールについては，様々なツールを授業内で活用することにより，自ら場面に応じて選択しながら活用できるようになることを期待する。また，複数の児童が，情報収集・整理・分析や，自己表現を苦手と感じているが,「ロイロノート」を活用することは，考えをまとめたり，深めたりすることに有効であると考える。

以上のように，本単元の学習を進めることにより，探究的な見方・考え方を働かせながら課題を解決し，未来をよりよく生き抜くための資質・能力を育成したい。そして，社会を担っていく一員としての役割を自覚できるようにし，誰一人取り残すことのないよりよい未来の創り手，担い手となってくれることを願っている。

8. 単元構想図

別紙参照

○単元で育成することを目指す具体的な資質・能力に関連する教科等

５年　家庭科	「持続可能な暮らしへ物やお金の使い方」 ・環境に配慮した生活について物の使い方などを考え，工夫する。
６年　社会科	「わたしたちのくらしと日本国憲法」 ・日本国憲法の特色について理解する。
６年　社会科	「世界の未来と日本の役割」 ・平和な世界の実現のための国際連合の働きを理解する。
６年　国語科	「私たちにできること」 ・目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にする。
６年　国語科	「今，私は，ぼくは」 ・自分の考えが伝わるように表現を工夫する。

○本時が位置する学習過程の評価・支援計画表

本時が位置する学習過程（全１７時間） **学習課題**　活動　子どもの言葉	㊙評価の視点と方法 ・主な支援 ●関連する教科等
提案課題　プロジェクトを提案しよう	・常時，課題とSDGsの目標とを関連付け，掲示する。 ・SDGsの17の目標について調べた内容を「ロイロノート」に整理し，いつでも見られるようにする。
① 現状を整理しよう 使っていない教室の電気がつけっぱなしになっていることがある。鉛筆や消しゴムなどがよく落ちているけど，持ち主がいなくてもったいない。友達に，よくない言葉を言っていることがある。	①②身近な課題を解決するための方法を友達と話し合いながら模索しようとしている。【学・人等】（授業観察） ・第一時までに，身の回りで見つけた課題を付箋紙に記入し貼っていくようにする。また，インターネットから得た情報もあわせて「ロイロノート」で整理し，児童に配布する。 思考ツール「Wチャート」
② プロジェクトの条件を決めよう ・「誰一人取り残さない」こと ・簡単に(すぐに)取り組めること ・学校や家庭・地域のみんなで取り組めること	・追究過程のまとめをもとに，条件を確認できるようにする。
③「no one will be left behind」について考えよう 「誰一人取り残さない」ということは，誰かのために他の人が不幸になる等ということのない状態でなければならない。	③目標を達成するためには，多くの人と協力し合うことが大切であることを理解している。【知・技】（授業観察） ・『THE SDGs アクションカードゲーム．X』（金沢工業大学SDGs推進センター開発）を通して「誰一人取り残さない」ことの意味を理解し，思考を広げられるようにする。
④自分たちがやるべきことを考えよう ・お金を寄付する。 ・使っていない電気を消す。 ・物を大切にする。 ・食べ残しをしない。 ・買い物に行くときは，できるだけ歩いていく。	●家庭科「持続可能な暮らしへ　物やお金の使い方」 ④⑤身近な課題を解決するための最適な方法やそのための策を考えている。【思・判・表等】（授業観察・ロイロノート） ・「何とかしたい」「気がかりだ」と思う課題に対して，グループで話し合いながら進められるようにする。 ・思考ツール活用 「ダイヤモンドランキング」 ・自分なりに考えたことを整理する。

⑤「やるべきこと」を整理しよう ・お金の寄付は，大人にならないと難しい。 ・使っていない電気を消すのはすぐにできる。 ・物を大切にするのはすぐにできる。 ・食べ残しをしないことは，すぐに取り組める。 ・買い物に行くときは，難しい場合もある。	
⑥プロジェクトを決めよう【本時】 ・「電気を消すこと」 どこでもすぐにできる。 ・「物を大切にする」 身近でどこでもできる。 けれど，何か方法を考えた方がいいから，準備の時間が必要だ。 ・「食べ残しゼロ」 どこでもすぐにできる。 ・「ゴミの分別をする」 結果が見えやすいと思う。	⑥選択理由を明確にしたり，課題との整合性を確かめたりしながら解決策の内容を考えている。 【思・判・表等】（授業観察・ロイロノート・ワークシート） ・思考ツール活用 「ダイヤモンドランキング・座標軸・ピラミッドチャート」
⑦提案方法や内容，結果の分析方法を考えよう ・ポスターを作って貼ろう。 ・放送で伝えよう。　・動画を作ろう。 ・現状や課題も知ってもらう方がいいと思う。 ・SDGs について伝えるのはどうか。 ・各クラスで記録してもらって集計しよう。 ・ロイロでアンケートを作って意見を聞こう。	⑦身近な課題を解決するための方法を友達と話し合いながら模索し，協働して粘り強く実践しようとしている。【学・人等】 （授業観察・ロイロノート） ・思考ツール活用 「キャンディチャート」
⑧⑨プロジェクトを進める準備をしよう ・取組内容を具体的に，わかりやすくまとめよう。 ・プロジェクト名は，興味をひくものにしよう。 ・思考ツールをそのまま使うのもわかりやすい。 ・分析方法を知らせておくことも大切だ。	⑧⑨集めた情報の関連性を見出したり，共通点を見つけたりして，キーワードで整理したり，それらを図や文章でまとめたりする方法が分かっている。【知・技等】 （授業観察・成果物）
⑩～⑬プロジェクトの経過を分析しよう ・まずは，結果を集約しよう。 ・どのように計画したかも，もう一度確かめよう。	⑩自分たちが考えた課題解決に向けたプロジェクトをよりよい取組にするために，様々な方法で必要な情報を集めている。 【思・判・表等】（授業観察・ロイロノート・ワークシート）

・集めた結果を分析しよう。効果はあったかな。 ・まだあまり取組が進んでいないようだから，発信方法を変えてみよう。 ・取り組むことの大切さが伝わるには，伝える内容の工夫が必要だと思う。	⑪～⑬プロジェクト活動を進める中で集めた情報や考えを整理・分析し，活動をよりよくする方法を考えている。【思・判・表等】 （授業観察・ロイロノート・ワークシート） ・キャンディチャートに記した方法をもとに分析できるように，情報を集めておくよう随時促す。 ・思考ツール活用（自由選択）
⑭プロジェクトをまとめよう ・課題と取組内容，方法，結果をまとめよう。 ・今後も取り組むことができるように，新たな工夫も考えたい。	⑭自分たちが考えたプロジェクトについて，練り上げた考えをもとに，分かりやすくまとめている。 【思・判・表等】 （授業観察・ロイロノート） ・内容や方法等，項目ごとにまとめられるようにする。 思考ツール「フィッシュボーン」
⑮⑯結果報告をしよう ・伝えるためには，結果がわかる資料があると，説得力が増すと思う。 ・結果をまとめた思考ツールや，アンケートの集計などを使おう。	●国語科「私たちにできること」 ⑮⑯情報を整理・分析しながら活用できるデータや資料をつくることができる。【知・技】 （授業観察・成果物） ⑮⑯自分たちが考えたプロジェクトについて，練り上げた考えを分かりやすく表現している。 【思・判・表等】 （授業観察・ロイロノート） ・必要に応じて思考ツールを選択し活用できるようにする。
⑰プロジェクトを振り返ろう ・プロジェクトに関係なく，続けることが課題解決につながると思う。 ・効果的な取組ができた。もっと多くの人とできないかな。	⑰よりよい未来に対する自分の考えや言動の変容に気付き，今後も継続して大切にしていこうとしている。 【学・人等】 （授業観察・ワークシート） ・提案過程の学習内容を「ロイロノート」にまとめて整理しておくことで，振り返りに生かせるようにする。

9．本時の目標

学校や家庭，地域などで実行可能な「自分たちがやるべきこと」の中から，選択理由を明確にしたり，課題との整合性を確かめたりしながらプロジェクトの内容を考えることができるようにする。

10. 本時の展開　（２９/７０時間目）

学習活動 （○主な発問及び指示・予想される児童の反応）	・指導者の手立て及び支援 ■ICT 活用
１．提案過程の学習の振り返りをもとに，本時の学習課題を設定する。 ○前回の学習の振り返りを確かめましょう。 ・誰もが簡単にできて効果のある取組をしたい。 ・みんなで取り組める「自分たちがやるべきこと」を考えたい。	・事前に,前時に考えた個々の「やるべきこと」を共有ノートに準備しておくようにする。 ・前時までに考えたプロジェクトの条件や気付きなどをまとめて，提示することにより，思考がぶれないようにする。 ・前時の振り返りを共有しながら学習課題を設定することにより，主体的に学習できるようにする。
“未来プロジェクト”で取り組む内容を決めよう。	
２．自分で考えた「やるべきこと」を，実行することが「すぐにできる」か「時間がかかる」かについて話し合いながら，グループで順序付けする。 ○まず，自分が考えた「やるべきこと」をグループの友達と話し合いながら，ダイヤモンドランキングで整理しましょう。 ・今すぐ簡単にできることもある。 ・大人にならないとできないことがある。 ・準備の時間は必要だけど，効果的な取組だと思う。	・思考ツール（ダイヤモンドランキング）を活用し，個々に考えた「やるべきこと」をもとに，グループで話し合いながら１つにまとめていくよう例示することにより，活動方法を理解できるようにする。 ・理由を大切にするよう伝えることにより，考えを深められるようにする。 ■ロイロノート（整理・分析）
３．学校だけでなく，家庭や地域でもできることかについて話し合いながら，グループで順序付けする。 ○「学校」でできること,「家庭や地域」でできることかを考え，座標軸を使って考えましょう。 ・学校でしか取り組めない。 ・家庭や地域でしか取り組めない。 ・どちらでも取り組むことができそうだ。	・思考ツールを切り替えて（座標軸），話し合うよう例示することにより，活動方法を理解できるようにする。 ・理由を大切にするよう伝えることにより，考えを深められるようにする。 ・事前に共有ノートで操作するリーダーを決めておく。 ■ロイロノート（整理・分析）
４．順位付けしたものの中から，実際に取り組む解決策を決める。 ○自分たちが取り組むことを１つ決めましょう。 ・簡単にすぐできて，どこでも取り組めることの方が条件にも合っているし，続けやすいと思う。 ・「誰一人取り残さない」取組であるべきだから，誰かが必要以上に我慢しないといけないのはよくないと思う。	・グループ用ワークシート（ピラミッドチャート）を配布することにより，決まったこと（課題と現状・取組・(決定理由)）を書き込み，整合性を確かめられるようにする。 ・座標軸の中の決めた取組を丸で囲み，提出するよう伝える。 ・発表者を決めること，理由を明確に発表することを伝える。 ■ロイロノート（整理・分析）

5．決めた解決策について共有し，まとめる。 〇決まった取組と，決めた理由をピラミッドチャートにまとめて交流しましょう。 ・誰もが取り組みやすいので，「使わない電気を消す」に決めました。 ・家でも学校でもできるので，「石鹸を使いすぎない」に決めました。 ・人とのつながりをつくるために，すぐに取り組める「あいさつをする」に決めました。	・日常を想起しながら聞くよう伝えることにより，実行可能か考えられるようにする。 ・主な決定理由を取り上げて板書することにより，実行可能かを判断しやすいようにする。 ・発表グループの座標軸をモニターで共有する。 ■ロイロノート（共有）
6．本時の学習を振り返り，次時の学習問題を設定する。 〇学習を通して考えたこと，次回の学習の見通しを書きましょう。 ・どこでもすぐにできる，問題の解決策を考えることができた。多くの人と取り組むことが大切だと思うので，クラスや学校全体で取り組めるように，具体的な方法を考えていきたい。 ・取組の内容が決まったので，実際に取り組んでいきたい。多くの人に協力してもらいたいけれど，そのためには，なぜ取り組む必要があるのかも知ってもらうことが大切だと思う。	・児童の振り返りをもとに，次時の見通しをもてるようにする。 ＜評価＞ 選択理由を明確にしたり，課題との整合性を確かめたりしながら解決策を考えている。 【思・判・表等】（授業観察・ロイロノート・ワークシート）

11. 評価（場面；視点・方法）

選択理由を明確にしたり，課題との整合性を確かめたりしながら解決策を考えている。
（学習活動４・５・６；【思・判・表等】（授業観察・ロイロノート・ワークシート））

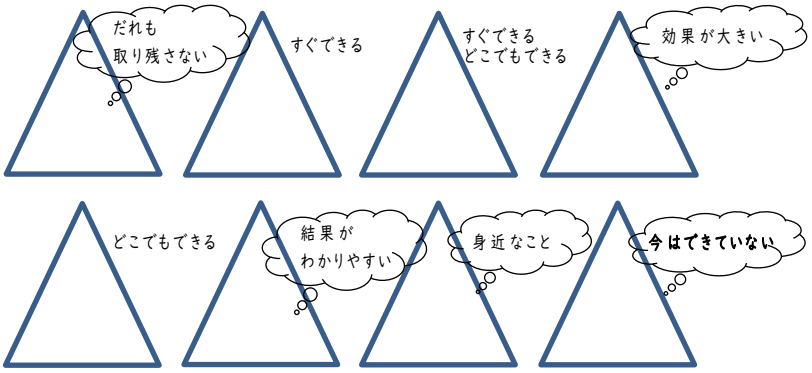
ルーブリック

A	B	支援を要する
思考ツールを活用しながら複数の視点で理由を明確にし，課題や条件に合った解決策を考えている。 または， プロジェクト実行までの見通しをもち，具体的な活動を振り返りに書いている。	思考ツールを活用しながら理由を明確にし，課題や条件に合った解決策を考えている。	理由がはっきりしない。 ←思考ツールを活用し，「簡単」「難しい」などの視点に合わせて考えられるよう声をかける。 ←話し合いの仕方を工夫するようグループに促す。

12. 板書計画

紫野から
よりよい未来へ

“未来プロジェクト”で取り組む内容を決めよう。

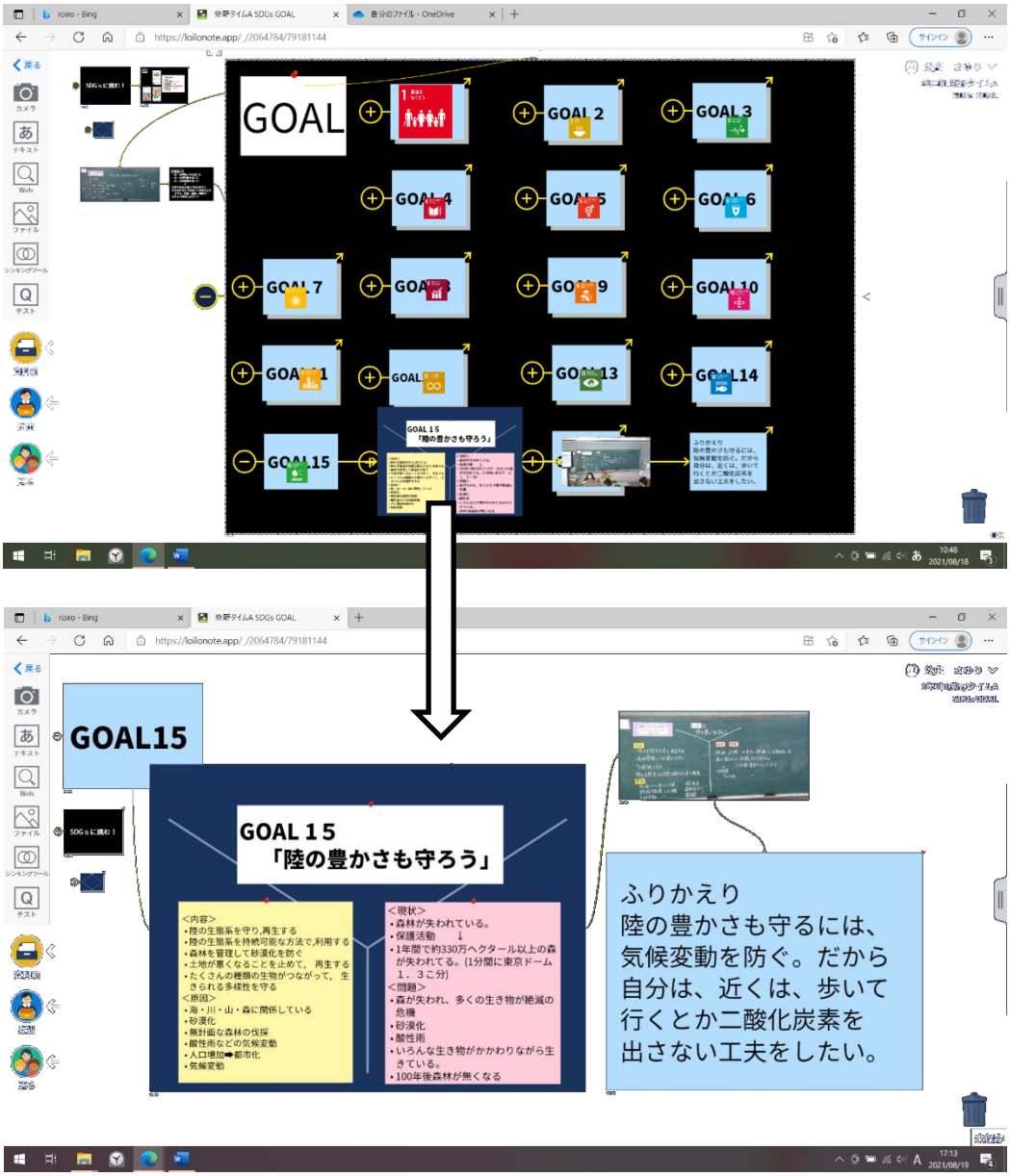


プロジェクト実行に向けて
□だれ一人取り残さない
□簡単ですぐにできる
□学校でも家庭や地域でも
できる

取組の内容が決まったので，実際に取り組んでいきたい。多くの人に協力してもらう方法を考えたい。

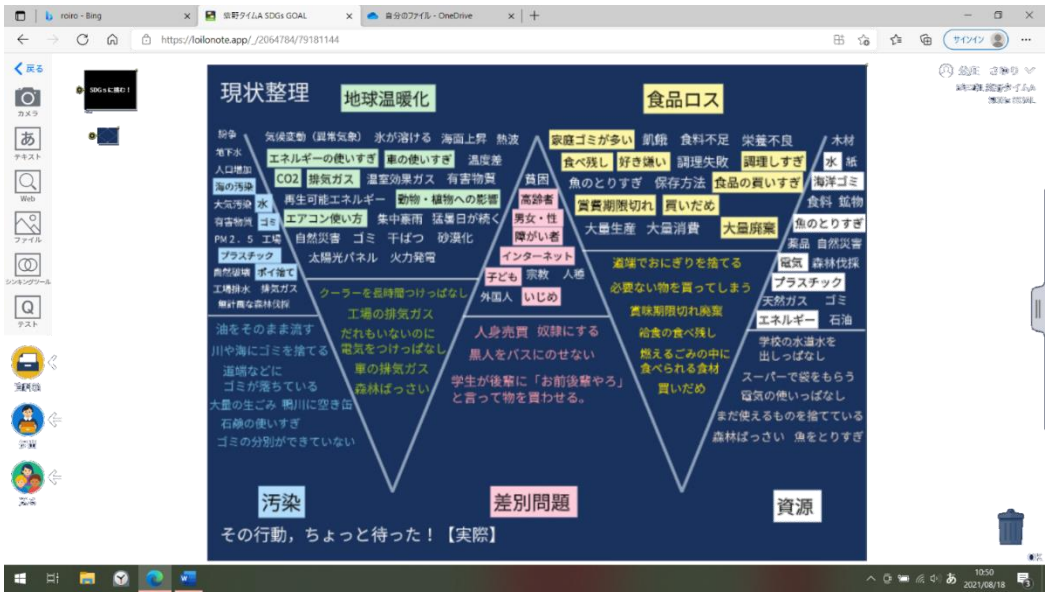
13. ICT 活用

①追究過程での学習を「ロイロノート」に整理してまとめておく。



② 課題別に整理し，Wチャートにまとめておく。

③ ②に，身の回りから見つけた課題を書き加えて児童に配布する。



④ 本時の活用